

神のこと、人間のこと マタイ16:21~28 / 李正雨師

信仰というものを他の言葉で言うとは何だろうかと考えてみました。信仰という言葉の代わりに使える良い言葉があるでしょうか。いろいろ思い悩んだ末、完全ではありませんが、「関係」という言葉を考え出しました。信仰を持つようになった人には、前にはなかった新しい関係ができます。イエス様と自分の関係、そして、イエス様を信じる人々との関係、すなわち、教会の中での信徒たちとの関係ができます。時間が経つにつれ、その関係の中で、お互いをよく知るようになり、お互いの中で信頼ができます。そして、その信頼に基づいて、イエス様についての信仰の告白をするようになります。

イエス様と弟子たちとの関係もこれと同じだったと思います。先週、森先生がおっしゃったように、弟子たちも最初からイエス様を神の子とは思わなかったと思います。イエス様を特別な人、洗礼者ヨハネやエリヤのような預言者だと思ったのではないかと思います。しかし、時間が経つにつれ、イエス様に対する理解が深くなり、そのような関係の中でペトロは、特別な信仰の告白をすることになりました。「あなたはメシア、生ける神の子です。」この告白を聞かれたイエス様は、初めてご自分が何をなさるかを打ち明けられます。その言葉が今日の福音書の最初の言葉である21節の言葉です。21節です。「このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている。と弟子たちに打ち明け始められた。」

イエス様は、弟子たちがご自分を神の子として受け入れると、ご自分がエルサレムで何をなさるかを言われます。ところが、この言葉によって弟子たちはとても驚きました。イエス様がおっしゃったのは、ご自分の苦難と死に対することだったからです。弟子たちはイエスの苦難と死について考えたことはありませんでした。むしろ、神の子がエルサレムで起こす驚くべき奇跡について期待していました。ゼカリヤ書9章9節では、このような預言が書いてあります。「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者…」弟子たちはイエス様がこの預言の王、メシアであると考え、この預言通りに自分たちに勝利をもたらすのだと思いました。しかしイエス様の言葉は、これとは異なりました。勝利ではなく、ご自分の死があるというのがイエス様の言葉でした。それで、ペトロはこのことを強くいさめました。「ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。『主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。』」

ペトロがイエス様をいさめたのには、いろいろな理由があると思います。ただ自分たちの考えと違ったから、いさめただけではなかったでしょう。弟子として自分の先生のことを心配したからということもあり、旧約聖書の預言の成就のためであったかもしれません。民のために、特に弱者のためにイエス様は王になるべきだと思ったかもしれません。それで、ペトロはイエス様の苦難と死があつてはならないといさめたと思います。しかし、イエス様はこのようなペトロの考えを正しいとは思っておられませんでした。ペトロの考えは、サタンのこと、人のことだと言われます。23節です。「イエスは振り向いてペトロに言われた。『サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。』」

以前、私はこの言葉を読んで、イエス様が自分のことばかり考えているペトロを叱られたと思いました。ペトロは、自分の考えだけに夢中になって、神のことと人間のことを分けることができなかつたと思いました。ところが、今回の説教を準備しながら、今日の福音書の言葉がちょっと違って感じられました。ペト

ロの間違いやイエス様の叱りよりは、イエス様の邪魔をすること、人間のことを思っているのは何なのかということを感じるようになりました。ある意味、ペトロのいさめは、誰でもできることでした。自分の考えや願いのためだけでなく、自分の先生の死を引き止めない弟子が果たしているのでしょうか。預言の成就、民の勝利を目の前に置き、いさめない人がいるのでしょうか。それで、ペトロはイエス様をいさめたと思います。しかし、イエス様は、これを人間のことを思っていることとおっしゃいます。「サタン、引き下がれ」と強くおっしゃいます。

私たちが生活の中で人間のことを思うのは、当然のことです。人間は社会的な動物として社会を構築し、その中で生きていくからです。みんなが一緒に交じり合って暮らしているので、私たちの中で立てられたことを軽く思ってはなりません。しかし、今日の福音書が語っているのは、これらの人間のことを無視しなさいというわけではありません。人間のことが重要ではないというのではなく、私たちが弟子として何を思い、天の国の鍵を持っている者として何を追求すべきかを語っているのです。私たちの本性は、私たちに人間のことを思わせるのです。しかし、イエス様は私たちに人間のことでなく、神のことを思いなさいと言われます。そして、自分を捨て、自分の十字架を背負いなさいと言われます。24節の言葉です。「それから、弟子たちに言われた。『わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』」私たちの本性ではなく、信仰に従うこと、自分を捨て、自分の十字架を背負ってイエス様に従うこと。これが神のことを思っている者が求めなければならないことだとイエス様は言われているのです。そしてイエス様は、このこと、十字架を背負ってご自分に従うことには、命があるとされます。イエス様に従う者には、天の国の鍵が与えられるからです。

私は信仰というものは、人々に全く違う価値観をもたらしてくれると思います。それで、信徒である私たちは、この世の中でも人間のことでなく、神のことを思い、従うことができるのです。イエス様をメシアとして告白することもでき、イエス様に従うために十字架を背負うこともできるのです。私たちが目指していることが、この世ではなく、天の国であるからこのようなことが可能なのです。そして聖霊は、このような私たちの信仰を導いてくださいます。私たちが続いて天の国を目指して行くことができるように。十字架によって真の命を得ることができるよう導いてくださいます。この聖霊が皆様を導いてくださいますように。人間のことでなく天のことを思い、喜んで十字架を背負う皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン